たいよう

1 月号

NPO 静岡県青年団連絡協議会
広報紙 たいよう　第 57 巻-5 号
平成 26 年 1 月 24 日発行
発行責任者　　草野　心路
編集・発行　　組織部
〒420-0068 静岡市葵区田町 1-70-1
TEL　054-254-2006
E-mail　kendan@youthnet.or.jp

東海ブロック研修IN静岡

東海地区（愛知、岐阜、三重、静岡）の青年団の学習機会と交流を図る目的で、毎年行われている東海ブロック研修会が、今年度は静岡県を会場に総勢 20 名が集まり、12 月 7～8 日の日程で開催されました。

今年度は富士山が世界文化遺産に認定されたこともあり、富士山にちなんだ学習と交流の機会としました。

初日は静岡県青年団のＯＢである鈴木庄七さんを講師に招き、青年団の父と言われる田澤義鋪（よしはる）氏の功績を学びました。日本で初めての天幕講習※を、三保の松原（富士山構成遺産）で行ったことや、明治神宮の森の造営にあたり全国の青年団の呼びかけに尽力されたこと等を知り、現在の青年団の基礎を築いた方が静岡に深いゆかりがあることに感銘を受けました。

田澤氏を熱く語る講師

講話の後は、恒例の懇親会で各地区の特産物に舌鼓を打ちながら互いの活動の近況等を語り合い、交流を深めました。

2 日目は視察研修を行い、最初に三保の松原を訪れました。次に日本平山頂からロープウェイを利用し、久能山東照宮を参拝しました。日本平からは観光案内の方に同行して頂いたことで、より一層知識を深めることができる視察となりました。

最後は清水の河岸の市での昼食と、すんぷ夢ひろばの入浴でさらに親交を深めることができました。

2 日間を通して静岡の名所や青年団の歴史に触れながら、知識と他県の青年団との交流を深める良い機会となりました。来年度開催される岐阜でも互いに高め合える研修を楽しみにしながら今後の活動に活かしていきたいです。

日本平山頂での観光案内

会長　　草野　心路

※天幕講習・・・一般の青年を対象に三保の松原にテントを張り講演よりも懇談を主とした 2 泊 3 日の講習会。

～　参　加　者　か　ら　の　感　想　～

12 月 7～8 日に行われた東海ブロック研修会に参加しました。

一日目は、青年団の父でもある田沢義鋪氏についての学習でした。話を聞いて、昔の青年団は団結力があって勢いがあると思いました。今活動する自分たちも負けずに頑張りたいと思いました。二日目は世界文化遺産にもなった富士山が見えるスポットを周りました。曇り空で富士山を見ることができなかったのですが改めて地元を巡って他県の人に簡単でしたが説明することでまだまだ知らないことがあると実感しました。

これからは、自分達の活動が自分達仲間だけで満足しないよう、自分から動き、思いを地域に発信していくことで今よりさらに地域に根付いた活動を行っていきたいと思いました。

静岡市青年団連絡協議会　山梨　剛

青年団の父と謳われる田澤義鋪氏が明治神宮建設のためにはじめに動員したのが静岡の青年であり、そこから全国の青年団結成につながったということで静岡人として身近に感じた。田澤氏は偉大なリーダーかもしれない。しかし、時代が今だったら果たして同じことができるだろうか、それを可能にした、国家体制にも関心が湧いた。

また、その後、青年団に限らずおよそ国民の住民組織という組織は戦争翼賛体制にのみ込まれていった事実がある。戦争でなくても主体的意思をどれだけ本来の要求に従ってどれだけ同世代の青年に説得力を持って平和を訴えることができるのか問われている気がした。戦後の現在の青年団の生まれ変わり方にも興味を持った。

磐田市　磯部　元樹

袋井　ユーコム

12 月 14 日と 12 月 22 日の二日間でユーコムを開催しました。ユーコムとは、市内中学生たちを対象に、中学生が自ら企画、運営をしたものを実行してもらい、1 つの地域活動の経験と体験を日常に生かしてもらうのが目的です。今年は、より地域の人たちや幼児たちに積極的にふれあってもらえるように『宅配サンタ』を企画しました。

今回は 6 名の中学生が参加し、12 月 14 日の顔合わせを交え、手作りのメッセージカードを一緒に作りました。 最初は互いに緊張が見えましたが、一緒に作業するなかで徐々に打ち解けていました。

12 月 22 日の宅配サンタ当日は 10 世帯を周り、中学生参加者は始まる直前に「子どもたちが思うサンタのイメージってどんなだろうね？」と一緒に考えたり、「夢を壊さないようにがんばろうね。」と中学生同士が積極的にお互い声をかけあったりする場面が多く見られました。プレゼントを届ける世帯に伺い、幼児たちと対面すると緊張も消え、幼児たちへ夢を与える姿が印象的でした。

ユーコムを振り返り、中学生の参加者からは「普段の生活の中で体験できない様な経験ができて良かった、今回の貴重な体験を大切にしていきたい。」「子供たちの笑顔とこの活動が大切な経験となった。参加してよかった」と語ってくれました。

これからも、ユーコムを通じ中学生に地域活動の良さを知ってもらい、自主性や協調性を青年たちと一緒に育んでいきます。

宅配サンタの様子

袋井市青年団　団長　田中　信裕

三島　宅配サンタ

毎年 12 月 23 日、OWL（オウル）では「宅配サンタクロース」という事業を行っています。これは、子どもたちへのクリスマスプレゼントを、サンタとその仲間たちがお届けに伺うという活動です。子どもたちを喜ばすことが出来る活動がしたい、そんな思いでこの事業を続けてきました。

OWL ならではの特徴は、プレゼントを渡す前に、サンタさんが一人ひとりに親御さんから預かったその子だけのメッセージを伝えること、仲間の妖精が手品やバルーンアートを見せ、訪問先のご家族も巻き込んで、年に 1 度のクリスマスを盛り上げるよう工夫していることです。この事業を手伝ってくださる方は、「子どもの笑顔が見られてよかった」「来年もやってみたい」など感想を話してくれます。また、応募してくださる方の中には、涙を流しながら喜んでいただいたこともありました。

参加者全体集合写真

宅配サンタに限らず、子どもたちに「夢」を与えられる活動を、今後も取り組んでいきます。

OWL 会長　石川　峰

全国青年問題研究集会の魅力

第 59 回全国青年問題研究集会

日時　2014 年 3 月 7 日(金)～3 月 9 日(日)　主催　日本青年団協議会　場所　日本青年館
参加費　6300 円　…　食費、宿泊費別途　　締切　平成 26 年 1 月 31 日（金）

私が、全国青年問題研究集会で得られたものは仲間でした。

分科会では、初めて出会う人たちと自分の中にある問題について話し合ってアドバイスをもらったり、同じグループの人の悩みに対して自分が感じたことを話たりししました。

悩んでいることを人に相談しづらかったりしましたが、初めて出会う人も気にせず自分の悩みを打ち明け、グループのみんなで「どうしたらいいか？」という解決策を一緒に考えてくれる雰囲気や親身になって心配してくれる姿に安心し、短い時間でしたが、とても心の距離が近付いたと思います。

SNS などで近況を報告して、「来年の全青研でグループは違っても、会えたら嬉しいね」と伝えあえるような大切な仲間が増えた機会でした。

有度青年団　後藤うらら

過去二回参加した全国青年問題研究集会。私はこの場で同様の思いを持った活動家が全国各地にいることを知れたことがプラスでした。

青年問題研究集会は、名前こそ堅苦しいですが、何回も参加したいと思う魅力があります。その魅力とは、静岡県青年問題研究集会にも言えることだが、一年の振り返りが出来ることです。皆さんは、『一年の振り返り』をする時間はありますか。ほとんどの方が振り返りは必要ないと話しますが、一年間の自分の行動を思い返さぬまま新しい一年を過ごすことはもったいないと思います。

ではいったい何がもったいないのか。それは、自分の頭の中が整理されないまま新しいことを始めることだと思います。その一年の出来事には、嬉しかったこと、辛かったこと、挑戦したことなど様々な出来事があるが、それらを整理することで新たな目標が生まれ、達成するために何をしたら良いかと前向きに考えることができます。

何を効果と捉えるかは人によりますが、皆さんも青年問題研究集会で過去の一年を思い返して、新たな一歩を踏み出してみてはいかがでしょう。いつもと違う何かを発見できる可能性が秘められています。

組織部　中本　将之

編集後記

新たな年を迎えました。皆さんは今年の抱負は決まりましたか？さて東海ブロック研修や各地のサンタ事業が年末開催され、青年同士の絆が深まったことでしょう。年度末は来年度を見据え青年同士語り合ってみませんか？